

平成 28 年度 第 2 回 倫理委員会審議

申請者	副看護部長	馬場 勝江
受付番号	16-05	
課題名	平成 28 年度 看護職のワーク・ライフ・バランス (WLB) のインデックス調査 (施設調査) (職員調査) の実施	
研究の概要	日本看護協会「看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ」において当院のワーク・ライフ・バランス実現度を把握・分析し、今後の取り組みを検討するためのデータとして提出する。	
判定	迅速審査承認	申請のとおり承認とする。

申請者	副看護部長	馬場 勝江
受付番号	16-07	
課題名	九州大学病院看護部の「看護職の Off the Job Training (院内で職場外に集合させて行う教育、以下、Off-JT) 担当者の求められるコンピテンシーの構成要素と影響要因」についての研究における全国調査の協力	
研究の概要	平成 22 年度より新人看護職員の臨床研修等が努力義務化され、各医療機関で新人看護職員の教育が積極的に行われるようになってきており、看護職の Off-JT 担当者の配置が進んでいると予測される。一方で、Off-JT 担当者の教育能力開発は組織や個人に任されている現状であり、それに関する研究もほとんど行われていない状況である。 そこで、Off-JT 担当者に求められるコンピテンシーとコンピテンシーに影響する要因を明らかにすることを目的に、Off-JT 担当者を対象に質問紙調査を行う。(調査への協力)	
判定	迅速審査承認	申請のとおり承認とする。

申請者	腎臓内科医長	高島 毅
受付番号	14-38	
課題名	慢性腎臓病を対象とした酵素測定法によるファブリー病の診断	
研究の概要	ファブリー病は透析患者の 1% に存在し、慢性腎不全の予備軍である慢性腎臓病 (CKD) においてもファブリー病の存在が疑われている。今回、佐賀県においてファブリー病スクリーニングを行う。協力医療施設において CKD を有する患者にファブリー病を啓蒙し、検査を希望された方を対象に、問診票の記入と末梢ろ紙血による酵素測定法を用いた解析を行う。試料は佐賀大学医学部小児科で管理し、解析は熊本大学医学部附属病院小児科で $\alpha$ ガラクトシダーゼを測定する。結果を佐賀大学医学部から各施設へ連絡する。陽性者については、佐賀大学での精密検査を勧める。本研究に参加した対象患者については、臨床情報を解析する。	
判定	迅速審査承認	H26.1.22 付承認課題。研究計画書変更のため再審議の結果承認となった。

申請者	副看護部長	辻丸 祐規子
受付番号	16-08	
課題名	看護学生の主体的学習に影響を及ぼす要因に関する研究	
研究の概要	<p>近年の医療技術の進歩、患者の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮化の中で、看護学生に期待される看護師としての資質や能力は膨大なものとなっており、看護基礎教育で学ぶべき教育内容の1つに「主体的に学習をする態度を養う教育」があるが、これまでの研究より、「主体的に学習をする学生」を育成できているとは言い難い現状がある。</p> <p>そこで自己調整学習方略尺度を使用し看護学生の主体的学習に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的とした研究を行う。</p>	
判定	迅速審査承認	申請のとおり承認とする。

申請者	副看護部長	辻丸 祐規子
受付番号	16-09	
課題名	「全国国立病院に勤務する看護管理者のコンピテンシーと自己効力感との関連」に関する調査協力	
研究の概要	<p>看護部長にとって次世代の看護管理者の育成は重要な任務である。高齢社会、医療の高度化、患者の権利意識の向上など変化している社会の中で、看護管理者は、看護の質向上に責任を持たなければならない。また看護管理者の看護方針が職務満足に影響を与えられていると言われており、離職防止への取り組みなど看護管理者に求められるものはますます大きくなっている。より複雑で困難な課題に対応するためには、組織に何らかの変化をもたらし成果に導く「コンピテンシー」を兼ね備えた看護管理者の育成が重要となっている。</p> <p>今回、全国国立病院に勤務している看護管理者のコンピテンシーの現状について明らかにし、自己効力感との関連を見ることで、今後の看護管理者育成プログラムの内容や活用方法の検討をおこなう上での基礎資料となると考え調査することとした。</p>	
判定	迅速審査承認	申請のとおり承認とする。

申請者	外科系診療部第一部長	古市 格
受付番号	16-10	
課題名	悪性軟骨肉腫の皮膚転移・浸潤症例に対するモーズ軟膏の臨床使用	
研究の概要	<p>悪性軟骨肉腫の55歳男性を対象とする。腫瘍は骨盤を原発巣とし、現在までに重粒子線治療、外科的治療を複数回実施しているが予後不良である。</p> <p>当院においては左大腿部、下腿部の腫瘍摘出及びQOL改善を目的として左股関節離断術を施行しているが、転移性皮膚病変は術創周縁を中心に深刻である。体表部に浸潤した腫瘍からは多量の浸出液を漏出し、一部出血を認める。易感染状態であり、排液からは多剤耐性菌を複数検出している。</p> <p>浸出液の制御による患者QOLの改善と感染制御を目的にMohs軟膏によるchemosurgeryを実施する。</p>	
判定	迅速審査承認	申請のとおり承認とする。

申請者	副看護部長	馬場 勝江
受付番号	16-11	
課題名	佐賀大学医学部看護学科の「看護師長の看護師定着に特化したコンピテンシー（能力）モデルの開発の第一段階調査」についての研究における調査の協力	
研究の概要	<p>看護師の定着には看護師長の能力が影響を及ぼすことが明らかにされている。そこで、看護師長の看護師定着に関する能力が識別できる尺度である <b>First-Line Nurse Manager Competency Inventory</b>（看護師長の能力尺度）の日本語版を開発し、看護師長の看護師定着に特化した能力を明らかにした。しかし、看護師長の看護師定着に特化した能力に影響する要因は明らかにできていないため、その能力を高める具体的な方略について言及することが出来ない。</p> <p>本研究では、看護師長の看護師定着に特化したコンピテンシー（能力）モデルの開発の第一段階調査として、看護師の定着に関して効果があった実際の行動と、その行動に影響を及ぼした要因についてインタビュー形式で調査し、看護師長の看護師定着に特化した能力に影響する要因を明らかにしたい。</p>	
判定	迅速審査承認	申請のとおり承認とする。

申請者	診療情報管理士	酒井 恵
受付番号	14-18	
課題名	院内がん登録 QI 研究を用いた当院における標準的がん治療実施率の検証	
研究の概要	<p>当院のがん診療の標準的治療が実施されているかを術前術後の必要な検査の実施、術後補助療法の実施を中心に解析する。また、実施率について他施設と比較し当院のがん診療の背景や特性を検証する。</p>	
判定	迅速審査承認	H26.9.25 付承認課題。研究計画書変更のため再審議の結果承認となった。

申請者	腎臓内科医長	高島 毅
受付番号	16-12	
課題名	内シャント短距離閉塞・狭窄病変に対する PTA（経皮的シャント拡張術）不成功例における、病変部切除後端端吻合の有用性の検討	
研究の概要	<p>内シャント閉塞・狭窄病変に対する治療の第一選択として PTA があげられるが、不成功例では他部位での動静脈吻合による新規での内シャント再建、人工血管による病変部の静脈-静脈バイパスが必要となり、自己皮静脈が乏しければ深部静脈を利用した人工血管によるシャント造設が必要となる。内シャント再建では施行するたびに穿刺部位が減少していき、自己皮静脈が利用できなくなれば人工血管留置が必要となるが、人工血管留置では内シャントに比し、シャント感染のリスク上昇や、長期開存率が劣ること、および生命予後が不良であることなどが報告されている。</p> <p>1 cm前後の短距離の内シャント閉塞・狭窄症例であれば、病変部を切除後、端端吻合をおこなえば、治療前と穿刺可能範囲はほぼ変わらず、また人工血管留置する必要もない。</p> <p>今回、内シャント造設後の初回狭窄、閉塞症例に PTA を施行して不成功、かつ短距離病変（術前エコーで 1 cm以下とする）であった場合に病変部端端吻合を行った場合のシャント開存期間を評価することを目的とする。可能であれば本手術施行群、PTA 成功群、および他部位での内シャント再建群でのシャント開存期間の比較を行い、その有用性を検討したい。</p>	
判定	承認	計画どおり承認とする。

申請者	腎臓内科医師	松本 圭一郎
受付番号	16-13	
課題名	高齢者ネフローゼ症候群に対する腎生検の有用性と危険性の検討	
研究の概要	<p>腎生検は腎臓病の確定診断には必須で、治療方針の決定にはもっとも有用な検査方法である。しかし、その利便性に反して血流の豊富な腎臓を穿刺するため、検査に伴う出血は不可避であり、肉眼的血尿や腎周囲血腫をはじめとする比較的軽症の合併症から、止血が困難となり腎臓を摘出する例や塞栓術を要する例も少なくない。こうした中で、腎臓疾患が高齢者に発症し、治療方針決定のため腎生検を必要とすることがある。しかし、2009年のCKD診療ガイドラインでは「高齢者の腎生検は出血のリスクが高く、その適応は慎重に決定しなければならない」とのみ記載されており、実際の施行は臨床医の判断に任されている。</p> <p>そこで本研究は、高齢者の腎疾患に対し腎生検が真に必須の検査方法であり、その予後や治療方針に大きく関与、貢献しているかを検討、また、より安全で必要に応じた腎生検を確立していくことを目的とする。</p>	
判定	不承認	研究計画の再検討が必要。

申請者	診療放射線技師長	桑原 良二
受付番号	16-14	
課題名	ポータブル撮影におけるデジタル散乱 X 線除去処理ソフトを用いた胸部 X 線画像の臨床画像視覚評価	
研究の概要	<p>平成 27 年度にファントムを用いてデジタル散乱 X 線除去処理ソフトの画質特性（物理的評価）について研究し有用性を報告した。このソフトは、仮想の散乱線分布を想定して散乱線をデジタル的解析技術により除去し、画像のコントラストを高めて高画質を作り出している。この技術を用いた、人体のような複雑構造の臨床画像における視覚評価の報告は少ない。そこで今回、デジタル散乱 X 線除去処理ソフトを用いて、ポータブル撮影した患者の胸部 X 線画像の視覚評価についても有用性を研究する。また、近日中にリリース予定の骨撮影デジタル散乱 X 線除去ソフトを用いて骨撮影の臨床画像についても評価を行う。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	診療放射線技師長	桑原 良二
受付番号	16-15	
課題名	骨撮影における再撮影防止対策の試みー放射線被ばく低減にむけてー	
研究の概要	<p>一般撮影において、画像のデジタル化とモニター診断の普及、撮影の高速化及びデジタル画像処理技術の進歩により、撮影条件があつた場合でも診断可能な画像が提供できるようになった。その反面、フラットパネルによる撮影の高速化により、安易に再撮影するため再撮影率が高くなってきている。失敗画像は、画像サーバーに転送する前に破棄するため再撮影が表面にでないため、心理的に再撮影に対する安易さが増してきているように思われる。今回、再撮影の原因分析をアンケート調査で調べ、撮影技術勉強会、画像排除基準の見直し、徹底、撮影補助具の作製等対策を講じ、また骨撮影の再撮影率を一月ごとに集計し、再撮影率の減少につなげたい。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	主任診療放射線技師	小濱 義幸
受付番号	16-16	
課題名	逐次近似法における CT 値-MU 値変動の検証	
研究の概要	CT 再構成アルゴリズムでは逐次近似法が用いられている。逐次近似法は、画像ノイズ低減効果やアーチファクト低減効果によって画質が向上し、被ばく線量の低減が図られている。その反面、CT 値変動が報告されているため、定量評価、放射線治療計画画像にはこの手法を用いられていない。今回、逐次近似法を用いて画像再構成した場合の CT 値変動と放射線治療 MU 値の影響について検証する。	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	撮影透視主任	堀上 英昭
受付番号	16-17	
課題名	MRI 画像に周辺機器が及ぼす影響について	
研究の概要	MRI 画像のアーチファクトには色々なものが存在する。アーチファクトの原因の一つとして磁場の不均一があげられる。磁場が不均一になる理由として、磁気を発生しながら動く機械（除湿機、MRI 対応パルスオキシメータなど）、MRI 対応車いす、MRI 対応ストレッチャー、ドアの開放による磁場の乱れなどが考えられる。しかしながら検査に必須な機器も多く、検査室外に出すことが難しいものも多い。今回、これらの機器を MRI 検査室内に置いた状態、MRI 室のドアを開けた状態で撮像して、何も置いていない状態の画像と比較することで、臨床画像への影響を検証する。	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	西 3 病棟助産師	大川 香代子
受付番号	16-18	
課題名	平成 28 年 4 月以降の母親学級を受講した産後の母親に対するアンケート調査	
研究の概要	平成 28 年度の母親学級の内容変更に伴い、当院の母親学級を受けた母親に対して意見を聞き、内容検討を行う。	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	西 2 病棟看護師	峰 妃都美
受付番号	16-19	
課題名	低栄養状態の外科疾患高齢患者に対する NST 活動で得られた効果 ～「摂食意欲」を取り入れたカンファレンスシートの活用～	
研究の概要	<p>B 病棟は消化器・胸部外科疾患病棟であり、手術目的・化学療法目的で入院する患者の多くは高齢者であり、その多くは化学療法や放射線治療などの副作用に伴う摂食障害や栄養障害を来している。また、癌特有の癌悪液質が原因となり得るので、入院早期から栄養管理を行うことはとても重要だと考える。看護師は栄養アセスメントに際し、患者の状態を医師・栄養士・薬剤師などに情報提供し、決定された栄養療法に必要な輸液管理・経鼻経管栄養管理・患者教育などを行っている。患者の一番身近な存在である看護師が患者の変化により早く気づき、適切な栄養管理を行うことができれば、治療効果を上げることへつながるのではないかと考える。</p> <p>B 病棟では独自のカンファレンスシートを使用して NST カンファレンスを実施しているが、日々の看護実践へ活かすことが出来ていない。そこで NST カンファレンス活動における効果をデータとして可視化し、NST カンファレンス前後の「食事摂取量・体重・BMI・Alb 値・摂食意欲状況・必要エネルギー量の充足率」の変化を明らかにし、病棟スタッフがその検証結果を知ることによって、カンファレンスの意義や必要性を再認識し、NST 介入数の増加、また栄養管理を行う上でスタッフが積極的に意見を出し合い、行動が出来るなどの看護実践につなげていければと考える。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	西 4 病棟副看護師長	南川 栄子
受付番号	16-20	
課題名	病棟・手術室看護師に対する褥瘡対策に関するアンケート調査	
研究の概要	<p>①マットレス選択方法としてマニュアル内のフローチャートの活用状況、②ズレに対する対策ができているか、③褥瘡予防に関する物品を理解しているかについて看護師の現状を調査し、今後の指導方法を検討する。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。